今こそ求められる共感性

新型コロナウイルス感染拡大の状況下、さまざまな条件や制約の中で行われた入学式でしたが、おかげさまで 166 名の新入生を無事受け入れることができました。

今、こうした困難な状況の中で、私たち教師には「共感性」が強く求められると思っています。生徒一人一人の事情や状況などを共感的に理解し、気持ちや心情を丁寧に汲み取る姿勢を大切にしたいと思っています。また、ものごとに対する多様な見方や考え方を認め合う力も必要になります。教師にこの力が欠けてしまうと、いつの間にか排除や差別の眼差しが他の生徒にも見えない影響を与えてしまうと懸念としています。

子どもたちは大人の眼差しにとても敏感です。すべての子どもを偏見や差別の眼差しから守ることが教師の役割の一つであることを自覚して、学校再開に備えたいと思っています。

先日の日本経済新聞の論説の中で、フランスの経済学者ジャック・アタリ氏がこんなことを言っていました。「新型コロナの対策ではテクノロジーが力を持っている。問題はテクノロジーを全体主義の道具とするか、利他的かつ他者と共感する手段とすべきかだ。私が答える『明日の民主主義は後者だ』…」

アタリ氏は日本がこの危機からどう脱するかを注視しています。氏によれば、「日本は危機対応に必要な要素、すなわち国の結束、知力、技術力、慎重さをすべて持っている…」と言い、この危機が終わったときの日本の姿に期待の眼差しを寄せています。私たちは、学校や教師の立場から、歴史的な危機への向き合い方を考えていきたいと思います。